

令和6(2024)年度みよし市認知症初期集中支援チーム活動報告

1 実施体制

(1) チーム設置場所

みよし市(事務局:みよし市民病院 地域連携・医療相談室)

(2) 体制(令和7年3月31日時点)

ア チーム員名簿登録者数 52名

職種内訳:医師(サポート医)3名、薬剤師3名、精神保健福祉士5名、理学療法士・作業療法士2名、社会福祉士14名、介護福祉士12名、相談支援専門員(障がい福祉)1名、看護師・保健師12名

イ チーム員会議出席者構成

構成:医師(サポート医)、薬剤師、精神科病院(地域医療連携室)、公募チーム員、障がい者相談支援専門員、市民病院(地域連携室・リハビリ専門職・訪問看護師)、地域包括支援センター、長寿介護課

2 活動実績

	相談件数	支援決定件数	コア会議	チーム員会議	終結件数 (令和7年8月現在)
令和6年度	20件	1件	1回	12回	1件

3 支援決定者の概要

(1)相談経路 その他(ケアマネジャー)

(2)性別 男性

(3)年齢別 65-74歳

(4)世帯類型別 高齢者世帯(子と同居)

(5)介入前の医療・介護の状況 (延人数) (人)

	令和6年度
認知症疾患の臨床診断を受けていない	0
継続的な医療サービスを受けていない	0
適切な介護サービスに結び付いていない	0
介護サービスが中断している	0
認知症の行動・心理症状が顕著なため対応に苦慮している	1

(6) 医療状況

ア. チーム介入前 通院あり(認知症)

イ. チーム介入後 通院あり(認知症)

(7) 介護サービス利用状況

ア. チーム介入前 サービス利用あり

イ. チーム介入後 サービス利用あり(増加)

4 対応の概要

ケースNO	介入時			終了時			初動までの 日数※	支援期間 (単位:月)
	DASC	DBD13	Zarit	DASC	DBD13	Zarit		
R6-1	61	28	19	61	32	16	3	2
R6平均							3.0	2.00

※初動までの日数:

ケース把握から初動までの
期間

5 認知症初期集中支援チームの現状

支援決定数は1件だが、相談ケース(主に、認知症と精神疾患との鑑別ができていないケースやDASC31点以上ケース)が増加。チーム員の役割として、受診・サービスに繋げていくことだけでなく、“本人の想いを聴き取り、安できる環境を整えること”を目的に介入するケースが増えてきている。

6 認知症初期集中支援チーム員にかかる周知活動

- ・令和6(2024)年1月1日施行「認知症基本法」に伴い、本人視点で周知チラシを修正。
- ・昨年度に引き続き令和7(2025)年度も、高齢者が参加する講座や立ち寄る場所にて事業紹介やチラシの配架、さんさんバス車内や市役所内で事業説明の放映、市内医療機関・調剤薬局への周知活動に取り組んでいる。
- ・今年度は、ケアマネジャー向けに事例を紹介する等により周知活動を行っていく。

7 認知症ケースの早期把握・早期対応の取り組み(認知症施策検討作業部会での検討)

- ・地域包括支援センター等からの相談ケースの記録様式を簡略化し、負担軽減及び相談がしやすい体制づくりを
- ・地域包括支援センターの総合相談で認知症の相談や認知機能低下がみられるケースにDASCを実施。

得点が31点以上になった場合は、チーム員会議の相談にあげていくこととなった。

※DASCの得点が31点以上となり、R7年度チーム員会議の相談に上がったケース 3件(令和7年8月現在)